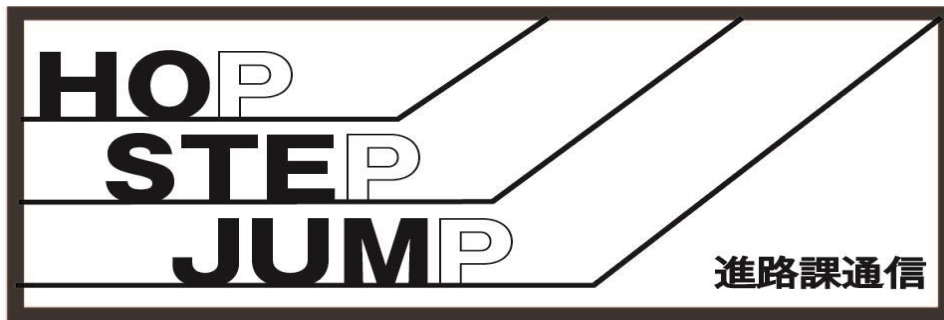




＝ 第4号 ＝
2020年5月25日
新庄北高校
進路指導課発行

※授業も本格的に開始してきました。

知識ゼロから
分かる

志望理由書の書き方 スペシャル【門外不出(全校配布しているが)】

3年生の中には、休校中に担任と面談をし、いち早く推薦準備に動いている生徒もいるようです。入試の方法に関わらず、必ず必要となってくる「志望理由書」について、SPECIAL 版でまとめました。

■自分をその大学（学校）に突き動かすものは何か■

実際の試験では、この点が大きな点数差となります。志望理由書では文章、面接では言葉と表情で試験官に伝えなければいけないことです。結局は志望理由書も「自分が考えていること」を表現したらいいのですが、多くの生徒は「何を書いたらいいんですか？」と頭を悩ませます。悩んだあなた、以下の視点で整理してみてください。

- ①きっかけは何か。(経験・体験)
- ②自分が学びたい学問や就きたい職業が、どんなものであると認識しているか。(きっかけになった経験に対し何を感じ、何を考えたか)
- ③将来どんな風に役立てたいか。また、将来その学問を通して何をしたいか。
- ④自分が向いていると思われる点。
- ⑤その学問や目指している職業のどのような点に魅力があると考えているか。

■「きっかけ&決意」→「考え」→「どうしたいか」の形■

(1) まずは・・・

志望理由書を書くために、指導する教員や担任と何度も面談をして、書くことの発見&整理が必要です。そして「知識(経験知)」を身に付けることも大切です。図書館で関連する本を借りる、「現場」を訪ねてインタビューする、専門家に聞く……。自分で集めた知識は、入試に関わらず、自分の考えを形作る要素になります。志望理由書を作成しながらの作業です。

(2) 次に・・・

志望理由書には「形」があります。「型にはまらない方が・・・」や「受験生の個性が無くなる」などと、昨今流行りの「個性重視」のコメントを発する人もいますが、それは間違いです。

志望理由書は読んでもらうものです。だから、読みやすい「形」に。

※個性を出すのは、文の「内容」、面接なら「表情」と「言葉」。

その形は、字数に関係なく「きっかけ&決意」→「考え」→「どうしたいか」。3つのパートにわけ書きます。どんな学部を目指すにしても、同じ形が基本です。

(3) さらに・・・

高校生が書くと、どうしても内容が薄くなってしまふのは、「考え」です。〇〇という事象は、▲▲だと考える・・・・。▲▲が書けない、内容が稚拙な生徒が大半です。それは、▲▲にたどり着くための知識が不足しているからです。 ※基礎基本の習得に繋がらない対話的学習（「作業式AL」と名付けたい）が全国的に問題となっているのも原因は同じです。

入試の現場では、知識を基盤とした考え（考察力）に点を付けます。そして、この力がある生徒と話した時、「あっ、この子賢いな」と感じます。だから、ここが「山場」であり「肝」。

(4) 最後に・・・

忘れがちなのが、「アドミッションポリシー（AP）との整合性」です。入学者受け入れ方針、という意味ですが、もっと分かりやすく言えば「こんな生徒が欲しい」。どの大学も工夫を凝らして作成しています。抽象的な表現や、似たような文言が多いのも特徴です。受験生の中には、各大学の募集要項の文言をコピーしてくる人もいますが、そうではない。なぜ、AP が抽象的に書いてあるのか。それは、受験生の多様性を見るためです。多様性は、「何がしたいか」の具体性でみています。それが「整合性」にも繋がります。つまり、コピペでは突破できない。

■先輩の書いたものから、多くを学ぶ■

先輩方(特に合格を勝ち取った)がどんな志望理由書を書いたのか、とても気になると思います。進路指導課では約10年分ほどストックしています。ぜひ読みにきてください。そして、今回はそんな先輩方のものから、「形」を学んで欲しいと思います。何パターンか、分野別に紹介します。

3年生のみなさん、頑張って、一読してください。

【パターン1 短い（400字）の志望理由書】

貴学の学生が製作した建築模型を間近で見た時、「これを作りたい」と心から思いました。小さな頃から模型好きだったこともあり、この出会いは「建築・デザインを学ぶ」「一級建築士」を目指すきっかけとなりました。

きっかけ
& 決意

四季が明瞭な山形の建築物や町並みをフィールドにして学べるのが大きな理由です。特に最上地方における住宅や景観には興味があります。山形県の統計によると、積雪量の少ない県内市町村と新庄市の年間の新設住宅着工件数には、人口の差以上に大きなひらきがあることが分かりました。私には、「雪と共存できる町・家づくり」という夢があります。積雪量の少ない場所を求め、地元を去ってゆく現状を改善する鍵が建築にはあるはずです。

考え

建築模型の製作を通し、夢や理想を具体的な形にするための建築の知識が学べ、地域にあった県内の工夫あふれる建築物を実際に自分の目で見える経験ができる貴学の学びは、必ず将来に繋がると考え志望しました。

どう
したいか

【パターン2 理系学部が多い、研究を主とする大学の志望理由書（1500字）】

新しい材料の発見が、私たちの日常生活を豊かにし、便利にしてくれる。私の父は、かつて電池の開発に携わる技術者でした。父の研究により安全性の高い電池が提供できるようになり、その電池が搭載された環境にやさしい自動車が完成しました。父の研究の成果が社会を豊かにしたのです。私もいつかそんな研究者になりたい、とずっと思っていました。

き
っ
か
け
&
決
意

私が貴学工学部を志望したのは、企業との共同研究に力を入れていることを知ったからです。私は、研究者のやりがいとは、自分の研究の成果が社会の中で誰かを支えたり、日常生活を豊かにすることだと思っています。企業との共同研究という、ものづくりの経験を積むことができる環境の中で、私は新製品の開発など、実用化に直結するような研究に積極的に携わっていきたいと考えています。また、将来的には物質の仕組みについて研究し、新しい材料やデバイスを開発していきたいという思いがあり、「材料科学」を専攻したいと考えています。オープンキャンパスや科学イベントに参加した際に感じたことは、「科学」は私が普段考えているよりもずっと奥深く、一口に「材料科学」といってもさらに多くの分野に細分化されているということでした。貴学では、1年次でまず物理、化学、生物の基礎を学んだ後、広い視野をもった中で2年次から専攻を決められるシステムであることを知りました。このことは修士課程、博士課程まで大学で研究を続けたいと考えている私にとって、本当に研究したい分野に辿り着ける安心感があります。また、工学部の規模も大きく、研究室間の連携も図りやすいということで、より実現性の高い研究ができることも魅力的です。貴学を志望した理由は、研究環境だけではありません。私は高校1年生の夏休みに、〇〇市の〇〇として、姉妹都市のアメリカ〇〇市でホームステイをする機会をいただきました。これをきっかけとして、異国の文化に興味をもち、去年は我が家に韓国の学生のホームステイを受け入れました。韓国の学生は、私と同級生でしたが、韓国語、英語、日本語の3か国語を話せ、自分の考えもしっかり持ち、知識も豊富でした。この経験から私は国際的にも通用するような研究者になりたいと強く思うようになりました。機会があれば海外で学びたいです。貴学のアドミッションポリシーには、「国際性を養う」という部分があり、国際的な視野で学べる環境にあることがわかります。貴学で学べるのであれば、その機会を十分活用し、語学を学ぶだけでなく、世界の科学研究を実際に体験して広い視野での知識を身につけたいと思っています。

考
え

私は今、「社会の役に立つ研究がしたい」というシンプルな目標しかもっていません。研究者を目指したい思いの大部分は、「物質の原理を知りたい」、「様々な現象を解明したい」という純粋な好奇心です。有名な研究者は研究者になろうとしたとき、高い志だけでその道を選んだのでしょうか。原理を知りたいという人並外れた好奇心と、それをとことん追求する忍耐力が原動力となり、価値のある成果を生み、その結果、社会を豊かに発展させてきたのだと私は思います。私は、科学への好奇心は誰にも負けない自信があります。また、3歳から今まで続けてきたバレエで培った忍耐力もあります。実験や調査で、今まで分からなかったものが分かる、できなかったことができるようになる。私にとって、それ以上に楽しいことはありません。そして、さらにその成果が社会に役立つのなら、こんなに嬉しいことはありません。父のように社会を豊かにする研究者になれるように。そしていつか、私の限りの探究心が科学の発展に貢献できるように、私の理想とする研究者像に一步でも近づくために、貴学工学部で学ぶことを強く希望いたします。

ど
う
し
た
い
か

※参考：ベネッセハイスクールオンライン

【パターン3 文系学部に多い、実学志向（社会で活躍）の大学の志望理由書（1000字）】

私は大学時代に培った力を基礎に、地方自治体の改革、活性化に取り組みたいと考えています。貴学部出身の〇〇〇氏は、私が住む山形県〇〇市で27年間にわたって首長をつとめ、山間部の農村を「誇れるふるさと」へと変えました。特に全国の地方自治体で始めて〇〇〇条例を制定したことは、地方から国全体に大きな影響をあたえた事例として知られています。「地方が変われば国も変わる」ことを体現した政策であると考えます。大学時代に身に付けた教養や交友関係を最大限に発揮するその姿に憧れました。

私は将来、総務省の職員となり、都市の発展に伴う地方の衰退に歯止めをかけたいと考えています。現在日本は、急速に少子高齢化や過疎化が進んでおり、私の生まれ育った山形県内でも維持が困難になっている市町村が多くあります。地方公務員である父が、「地方公務員にできることは限られているな」と述べていたのが印象に残っています。地方の消滅が騒がれる中で、国家主導で地方制度を見直していくことが必要であると考えようになりました。町づくりや村おこしといった取り組みが全国各地で取り組まれています。人手不足、財源不足の中では、昔と同じような取り組みはなかなか難しいと考えます。だからこそ、国の政策によって、地方を変えることが急務であると考えます。総務省自治行政局が取り組む「地域おこし協力隊」は、成功した実践例だと考えます。地域力の維持・強化だけでなく、地域の活性化から国の発展につながる活動の1つです。国政に活躍の場をうつし、国の中心から地方を改革する立場にいた〇〇〇氏のように、住民が活気をもった自治体をさらに拡大していきたいという夢があります。

地方活性化や地方創生における様々な課題は、政治と経済が絡み合っています。貴学では公共政策科目に力を入れ、行政学や地方自治政策を通じたローカル分野だけでなく、国際行政学などを通じたグローバルな視点も学び、これからの地方自治の姿や考え方、方策を研究したいと考えています。地域ごとの政治を比較して分析することや、他県、他国出身の人たちとの学び合いにも取り組んでいきたいです。私の目標は、国家公務員の立場から地方に光をあて、地方自治体を成長させることです。そのために、政治、経済分野のリーダーを多く輩出する貴学で、仲間と高め合い、自分自身を磨いていきたいと考え志望しました。

※3段落構成。それぞれの段落ごとに3パターンです。

書けるかな・・・と不安になった3年生へ

あなたは、絶対に書けます。その理由は**この先輩方も、あなたと同じだったから**です。

この先輩方の志望理由書には、読む人を惹きつける力があります。読んでいて感じたと思います。「この人魅力的だ」と。会ったこともない人に憧れに近いものを持ったのではないのでしょうか。それを「可能性」と言います。志望理由書とは「自分の可能性（伸びしろ）」を語る場です。**先輩にあって、あなたに可能性がないわけがない。**だから、絶対に書けます。

それでも、不安だ、結局何をしたらいいかわからない、という3年生もいるかと思います。**担任に相談しましょう。**不安や不満を言っても周りは変わりません。受験生が変えることができる唯一のもの「自分」です。自分が変わるから、世界が変わる。そんな「常に前を向ける姿勢」の1つの形が志望理由書です。一般入試の志望理由書は、まだ詳細を各大学が発表していませんが、分かり次第、対策をとります。

3年生、頑張ろうぜ！！